

# 第8回DLBSN北北海道 2024.9.5(木) 砂川市立病院

ご本人家族15名、ゲスト5名、スタッフ4名 計24名

今回は、在宅、施設入所、入院中の本人やご家族が参加。  
また、看護実習生と認知症グループホームスタッフも参加しました。自己紹介から始まり、本人から、今の調子をお話いただき、家族からは、うまくいった介護、伝えたいことを。そして、内海先生からの病気の特徴について説明がありました。

入院中の方の配偶者からは、「反論せず、すべて言動を受け入れ、本人の行動に合わせ、感謝の言葉やキスをするなど愛情をそそぐことで落ち着くように生活している」ことや、姉を介護している妹からは、「幻視や幻聴をきっかけに喧嘩もすることが、できるだけ病気の特徴に努めている」とのことでした。

一日眠い過眠や足の運びが悪いパーキンソン症状など、この病気の特徴について、内海先生から解説があり、家族もメモをとっていました。

後半は、グループになり話し合い。本人の昔の仕事のことなどをお聞きし、人前では意気揚々を話す姿に家族も微笑ましく見ていました。そして、互いの家族の経験を聞き入る場面もあったり、普段は話せないことを吐露しあい、これからの病気と向き合い方、介護への決意も新たにされたようでした。

